

平成25年度岡山大学学位記等授与式 式辞

本日ここに、ご来賓の方々、また多数のご家族・ご父兄の皆様にご臨席をいただき、平成25年度岡山大学学位記等授与式をとり行いますこと、卒業生、修了生の皆さんはもとより、大学にとりましても大変光栄のことと思います。

本学を代表しまして、心より、皆様方にお祝いを申し上げます。

卒業生ならびに修了生の皆さんの長年にわたる研鑽が実り、皆さんの履歴に岡山大学卒業という輝かしい経歴が加わる日でもあります。そして、卒業生の皆さんと私たち教職員が、社会に対して新たな責任を共有する、始まりの日でもあります。

心からお祝いを申し上げますとともに、これまでさまざまな形でご支援いただきましたご家族の皆様方、関係各位の皆様方に心からお慶びと、お礼を申し上げます。

本年度の岡山大学の学部卒業生は2,295名、大学院修了生905名、総勢3,200名に達します。本学が、これほどの多くの逸材を育成し、これからの日本を支えるべく人財を社会に送り出したこと、学長として大きな誇りであります。そして、私自身も岡山大学卒業生の一人として、皆さんが同窓生の仲間に加わることに、こころから歓迎をしたいと思います。

今日、多くの皆さんは、この岡山大学を最後の学びの場として卒業され、世界への扉を開き、希望に満ちた人生をスタートさせたことと思います。皆さんが過ごした学生時代は、受動的に教えを受け、答えが一つとは限らない問題を考え、答えの無い問題も受け入れながら、様々な事を学んできたことと思います。大学を卒業しても、学びが終わったわけではありません。これから皆さんが学ぶ場は、実社会であります。これからの学びは皆さんにとって、まさに生きていくという事であり、大学時代とは大きく異なり、常に選択と決断、必ず一つの答えを迫られます。

皆さんは、卒業と同時に会社や大学といった様々な「組織」社会に足を踏み入れる事となります。例えば一つの会社には、技術者、営業、広報、経理といった様々な部署があつて異なる人々が集まって形成され、そしてそれぞれが競争し合う社会です。今までの大学、学生の組織以上に、いろいろな多様性を持った人たちで構成されます。大概の組織は外の世界には異質性や多様性を認め

ますが、内の世界には認められません。このような競争、多様性を克服するには、まずは目の前の同僚や先輩に評価される人間になり、皆さんも多様性を認め、相手を認めることが大切であります。

私たちの人生は「偶然と運命」によって左右されています。皆さんは全くの偶然によってこの世に生まれてきました。皆さんの持っている遺伝子は全く偶然によって作られ、自分では変えようもありません。今までにも、少なからず運命に左右されてここまで来たことでしょう。偶然と運命は私たちにはどうしようもありません。

しかし、その運命の中
「自らの意思で選択をし、それをやり遂げることで、将来の自分を創ることが出来ます。」
偶然と運命の中、その時々皆さんが下した選択と行動によって、人生は大きく変化します。

皆さんが、この岡山大学を選んだのも運命ではなく、貴方の選択です。過去の多くの偉人達は、偶然と運命の狭間で、数少ないチャンスの中から、貴重な選択をして成功を修めた人達です。常に準備している者だけが、数少ないチャンスを自分で選択し手に入れる事が出来ます。

私の好きな言葉の一つは、

「この世で不変なものは変化のみ」という仏教の言葉です。

つまり、この世の中に変化をしないものは存在しないという意味です。逆説的ですが、まさに真実であります。私たちは、常に変化を強いられています。努力を怠り、学びをやめると必ず悪い方向に変化していきます。良い方向に変化するには、絶え間ない学びと経験の蓄積が必要であります。

今日、卒業を迎えられた皆さんは、入学時より努力を重ね、間違いなく変化をとげ成長をしてきました。これからのあなた方の進歩、成長を評価するのは、あなた方が果たした変化のみです。

「変わったという言葉こそが、最高の褒め言葉である」と、私はいつも思っております。

著しいテクノロジーの進歩と変化により、私たちを取り囲む世界は急速に変容しています。テクノロジーの進展により、世界はグローバル化を求められ、

距離と時間は縮小し、世界の人々が一瞬で情報を受け取る事ができるようになりました。Facebook やツイッターの呼びかけが国に革命を起こす様な時代になっています。人間がより住みよい世界を作ろうとすればする程、同時に問題が生じます。高齢化、過疎、労働問題、自然環境の変化、グローバル化による格差等、次々と我々に解決を求めます。

皆さんの性格が、内向きであろうと外向きであろうと、好むと好まざるとも、英語が得意であろうと、不得意であろうと、皆さんは今後、自身がグローバル化しなければ生き延びれない時代にすでに入っているという事であります。グローバル化とは、もちろん英語が話せることではありません。常に人としての教養を磨き、常に世界と連動して社会とともにあるという事です。

一ヶ月前、私はエジプトのカイロ大学を訪問しました。100年以上の歴史を持つ中東、アラブ最大の規模と内容をもつ大学も、市内の要所を軍隊が固めている状況下で、多くの若い学生たちは国の将来を考えて学生運動を繰り広げていました。

先週には、台湾の台北大学を訪問いたしました。そこには、台湾全土から学生が集まり、立法院を占拠して国と対峙して、さらには、街頭にも学生が溢れんばかりの政治活動を行っており、大きな若者のエネルギーを発散させておりました。まさに私の学生時代、1960年から70年代の日本の学生運動を思い出させるものでした。今の日本の若者に、このエネルギーはあるのかと感じざるを得ませんでした。

今年も、私が最も好きな言葉を最後に述べさせていただきます。

「国があなた方に何が出来るかを問うのではなく、あなた方が、国に何が出来るかを問うてほしい。」

50年前、私が中学生の時、Kennedy 大統領が就任式で行った演説の一節です。貴方の住む、この国を輝かすためには、「自分の置かれた環境は自分で作る」ことであり、他人ではなく、自分で変化をなし遂げることであります。

あなた方の人生が、新たに大きく変化が始まる日でもあります。あなたが正しいと思う事が、あなた方の選択であり、最大の努力することで、貴方の国を変え、貴方の人生の輝きを増していきます。

これから先、今日の日に戻ることはできません。明日が有るのみです。

いつの瞬間も、「過去に何をしたかが大切ではなく、これから何をするかが、人の輝きを決める」と信じています。

岡山大学もこれから大きく変化を遂げていきます。世界に扉を開いた、岡山大学の美しいキャンパスは、あなた方が、再び今日という日を思い起こしながら、輝きを増した姿で、この地に帰ってくることを待っています。

平成26年3月25日

国立大学法人岡山大学長 森田 潔